

# 山口大学における外国人留学生に対する就職支援 -ゲストからパートナーへ-

山口大学留学生センター長 福屋 利信

FUKUYA Toshinobu

2012年10月1日現在、山口大学には340名の外国人留学生が在籍しています。地理的要因もあり大半は東アジア諸国からの留学生です。2008年度に実施したアンケート調査では、約5割の留学生が日本での就職を希望していました。しかし、就職活動は留学生自身が自力で行なわねばならず困難を極めていたのが実状でした。そこで、2009年度に「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」、2010年度に「留学生のための日本企業文化理解講座」、2011年度に「ビジネス日本語授業」をそれぞれスタートさせ、現在まで、試行錯誤を繰り返しつつ継続してきました。

このような外国人留学生に対する就職支援体制が評価され、山口大学は、文部科学省「平成24年度留学生交流事業」において、拠点7大学のうちの1校に採択されました。これを機に、2012年11月から、地元の放送局であるKRY山口放送制作のラジオ番組に、留学生からの情報発信コーナー（毎月第一水曜日13時～13時半）を設けました。すでに2名の留学生が、自国の文化や日本での異文化体験を地域社会に発信し、リスナーからも好評をいただいています。

山口大学留学生センターでは、2013年度からの外国人留学生に対する就職支援体制を「ゲストからパートナーへ」のキャッチフレーズのもとに、さらに強化して行きたいと考えています。留学生たちが日本で身につけた力で、日本社会とグローバル社会との橋渡し役を果たすパートナーに育ってくれることを強く望んでいます。

## 1. 「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」

首都圏の大学で学ぶ留学生は、日本学生支援機構（JASSO）や国際留学生協会（IFSA）をはじめとする諸機関が主催する外国人留学生に特化した就職説明会やフォーラムに参加しやすい状況にあり、そういった機会に必要な情報収集が可能です。しかし、地方の大学で学ぶ留学生は、そういう機会があることを知っていても、高い交通費、宿泊費が障害となって、参加を断念することが多いのが現状です。

そこで、地方の大学で学ぶ留学生の希望と現状とのギャップを少しでも縮める意味において、「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」（以下「フェスタ」）を計画するに至りました。主催は山口大学留学生センターですが、大学コンソーシアムやまぐちに後援を仰ぐことで、山口県内の大学に所属する外国人留学生なら誰でも参加できることとしました。山口大学は、地方の根幹大学としての役割を、外国人留学生への就職支援においても果して行ければと願っています。

初年度であった2009年度に2回開催した後、次年度からは年1回のペースで、これまでに5回の「フェスタ」を実施してきました。参加いただいた企業は、宇部興産、トクヤマ、東ソー、山口井筒屋、東洋鋼板、秋川牧園、JR九州、パナソニック、帝国ホテル、TOYO MEMORY TECHNOLOGYなどの企業と山口県経営者協会、アジア人財資金構想、中国NBCなどの諸団体です。基本的に第一部で、参加企業及び団体からのプレゼンテーションがあり、第二部で企業ごとのブースで個別面談があります。参加留学生数は平均すると100名前後で横ばい状態が続いていますが、初年度のジーンズ姿での参加も散見される状態から、最近ではほとんどの留学生がスーツ姿で参加するようになりました。この「フェスタ」で、内定にこぎつけた学生たちも少なからずいます。

2013年度からは、従来の大企業中心の「フェスタ」に加えて、山口県労働政策課の協力のもと、中小企業中心の「フェスタ」を別途開催する予定です。また、日本型キャリア教育の一つである「インターンシップ」にも力を注いで行きたいと考えています。加えて、アジア人財資金構想と協力して就職情報共有システムも立上げました。

第5回 留学生就職支援フェスタ  
イン・山口

The Job Hunting Meeting  
Specialized in International Students  
in Yamaguchi

平成24年6月3日(日曜日)  
午前10時～午後4時  
会場：山口大学・大会館

〈参加企業〉 Panasonic、トクヤマ、秋川牧園  
〈講演〉 原正紀(高知大学客員教授・キャリア論)  
著書：優れた企業は「日本流」(扶桑社新書)

〈問い合わせ先〉  
山口大学留学生支援室：083-933-5979  
山口大学国際研究センター：083-933-5048(1980)  
http://www.fukuyama.net (dick ISC)

主催：山口大学留学生センター  
後援：山口大学学生公連携・イノベーション推進機構、山口大学就職支援室、大学コンソーシアムやまぐち

留学生就職支援フェスタ・イン・山口のポスター

## 2. 「留学生のための日本企業文化理解講座」と「ビジネス日本語授業」の関連

「留学生のための日本企業文化理解講座」は、後期授業14回に対し、14企業及び団体の代表者が留学生に講義するもので、1業種1企業及び団体に参画いただいています。この講座の目的は、縦系として普遍性を持つ日本独特の企業文化、横系として各業種間で異なるビジネス・マインドを学んでもらって、一つの織物としての日本企業の全体像を留学生に理解してもらうことです。そして、ひいては日本企業に就職を希望する留学生が自分たちの就職活動に、この講座で身に付けた基礎知識を有益に活用してくれることを望んでいます。その意味で、この「留学生のための日本企業文化理解講座」は、日本人学生のキャリア教育に該当するという理念のもと、共通教育科目として受講留学生には2単位を認めています。日本人学生にも聴講を認めており、日本人学生と外国人留学生がともに刺激しあって学ぶ異文化交流空間としても機能しています。ちなみに、本年度の参加企業は、エイベックス、ヤフー、山口放送、東洋証券、ワーナーブラザーズ映画、パナソニック、トクヤマ、東洋鋼板、秋川牧園、伊藤園、近代文藝社、全日空の12企業と就活コンサルティング2団体でした。将来的に

は、山口県内の他大学との単位互換制度を確立して、他大学に在籍する留学生も受講したら単位を取得できるように制度改革して行きたいとも考えています。



日本企業文化理解講座のポスター

この講座のさらなる特徴は、各参画企業の講義の前の週に、「ビジネス日本語」の講義で、各参画企業に対する研究とその業種に対する研究を十分行った上で各企業からの講義に臨むというシステムです。一例を挙げると、中国への進出を目論み、中国の食の安全意識の高まりにビジネス・チャンスを見出そうとする秋川牧園の講義には、「ビジネス日本語」の講義で、中国の農業政策と日本のそれとを比較研究してから臨んだりします。また、就活コンサルタント団体の講義の前には、日本企業の面接の方法、着眼点などを学んでから臨んだりもします。すなわち、「留学生のための日本企業文化理解講座」と「ビジネス日本語」が関連科目として有機的に結びついています。そのことにより、両方の講座が活性化しなおかつ新たな付加価値を生んでいます。

### 3. 地元企業との産学連携

現在マレーシアのサラワク州に新工場を建設中の地元企業の株式会社トクヤマと山口大学との間で、「マレーシアの大学に関する調査」(調査期間：2011年3月から翌2012年3月まで)に関する覚書を締結しました。その覚書における調査内容は、以下の如くでした。

- 1) マレーシアの大学受験までの教育制度
- 2) マレーシアの大学生の教育レベル
- 3) マレーシアの大学のカリキュラム(特に技術系)
- 4) マレーシアにおける日本語を履修している大学生の数
- 5) マレーシアの学生の就職状況及びマレーシアの大学における就職支援体制
- 6) 現地の文化、習慣、宗教に関する情報

この覚書にしたがった調査を山口大学留学生センターが行ないました。尚、調査に必要な経費は、株式会社トクヤマの負担とされました。以下に、その調査概要と成果

を紹介してみます。

まず、調査の第一義的対象はマレーシアの大学制度全体だが、実際の交流協定を模索する対象は、サラワク大学とすることが確認されました。その決定を踏まえて、2011年3月に最初の使節団（山口大学教員とトクヤマ社員で構成）がサラワク大学（サラワク大学長、副学長、工学部長、ランゲージセンター長などが出席）を訪問し、意見交換会を行いました。そこでは、山口大学とサラワク大学の言語教育の現状について、率直な意見交換を行ないました。さらに、翌日、マラヤ大学の日本留学予備教育を主管されている渡辺研究室を訪問し、マレーシアの教育事情に関する情報をいただきました。5月には、留学生センター所属の日本語教員がサラワク大学で日本語の授業を行ない、サラワク大学の日本語教育の現状を把握し、加えて、現地の日本語教育のスタッフと、お互いの使用教材等に関する検討の場を持ちました。また、9月には、田中俊彦工学部教授がサラワク大学工学部電気科の学生に対して授業を実施し、サラワク大学の工学部教員数名と、交換留学生制度の立ち上げに関して検討会を実施しました。その場で、サラワク大学からトクヤマをも加えた三者での共同研究の提案もありました。我々はこれを「トライアングル・ウィン構想」と名づけました。

2012年2月には、サラワク大学工学部視察団がトクヤマ周南工場、山口大学学長及び工学部長を訪問し、共同研究と交流協定の打ち合わせをしました。以上のような綿密な調査や検討会を重ねて、2012年3月29日、サラワク大学、山口大学、株式会社トクヤマ間で交流協定締結に至りました。産学連携による交流協定はマレーシアでは非常に珍しく、交流協定締結式には、サラワク州の報道関係者が多数駆けつけました。現在、この交流協定を基盤に、株式会社トクヤマによる奨学金制度の設立も検討されています。山口大学留学生センターとしては、これからも地元企業の要請があれば、企業のグローバル化と一緒に汗をかき貢献して行く所存です。

#### 4. 留学生からの地域発信

山口大学留学生センターでは、外国人留学生の就職支援には地域社会の外国人留学生への理解が不可欠と考え、地元のKRY山口放送とタイアップし、留学生からの地方発信コーナーを立ち上げました。山口放送制作のラジオ生番組「お昼はZENKAI、ラヂオな時間」は、月曜から金曜までの12:00から15:30まで、男女二人のパーソナリティがリスナーとのコミュニケーションを中心に展開するラジオ番組で、この文の執筆者の福屋は水曜日のパーソナリティを担当させていただいて6年になります。その第一水曜日の13時から13時半の時間帯に「留学生からのHOTな話題にCatch UP!」と銘打ったコーナーを立ち上げました。すでに、本年11月にはスリランカからの学生、12



ラジオ出演中の留学生（スリランカ）

月にはウガンダの学生が、彼らの国のことや若者文化、あるいは日本に来てみて驚いた異文化体験などを語ってくれました。コーナー内では、出演学生たちのお気に入りの曲（母国の曲に限定）を1曲オンエアしたりします。来年1月には中国人留学生、2月には韓国人留学生、3月にはカンボジアでボランティア活動をする予定の日本人学生がその体験を語ってくれることになっています。

このコーナーは、2015年3月まで継続することになっています。そこで、このコーナーをよりよいものにしていくために、また、地域の方々にこのコーナーの存在をもっと知っていただくために、市民参加型のシンポジウムと日・中・韓ライブコンサートを組み合わせたイベントを企画しました。「留学生からの地域発信～人、メディア、大学～」と題したシンポジウム&ライブを2013年1月14日に開催します。シンポジウムでは、司会者及びパネリストの中心を留学生に任せ、ライブは、山口県立大学の大学院生でCDも制作している韓国人留学生のアン・ジンソル、山口県内で二胡アカデミーを主宰する中国人二胡奏者の王丹、山口大学の広報ビデオのエンドロール曲を歌っている日本人シンガー・ソングライターの水本諭が白熱の演奏を繰り広げてくれるはず。会場はあえて大学のキャンパスを出て、山口市内の多目的シアターに設定しました。入場無料で、一人でも多くの地域住民の方々に来場してもらえればと思っています。

尚、この日のシンポジウム&ライブの開始の前に、地域の地方自治体、経済団体、企業関係者、NPO法人、ボランティア団体の方々を招待し、山口大学留学生センターの今後の取り組みをブリーフィングさせていただく予定です。そして、このような取り組みにご理解いただいた方々とともに、「留学生交流の里」を立ち上げ、2年半後に文部科学省からの支援が終了した後も、自立して外国人留学生への就職支援のレベルをさらに向上させて行く所存です。

最後に、2013年7月7日に開催予定の日韓民間交流の未来を探るシンポジウムの計画をご紹介します。このシンポジウムには、下関と釜山の高校生が親善陸上競技大会を機にほのかな恋心が芽生えさせて行く過程を描いた『チルソクの夏』を上映し、佐々部清監督（下関市出身）を招き、映画撮影の裏話を交えて講演いただくことになっています。「チルソク」とは「七夕」の意味ですので、開催日の設定にもこだわっています。このシンポジウムが、反日と嫌韓を越えて新たな日韓交流を模索する機会になればと祈る次第です。